

米国 自動車の生産縮小で製造業は一時的に下振れ(17年7月鉱工業生産)

：2017年8月18日(金)

～鉱工業生産の拡大モメンタムは比較的強いまま～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

	鉱工業生産		製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	設備稼働率	製造業 (SIC)	生産能力
	前月比	前年同月比									
16/07	+0.1	(▲1.2)	+0.1	▲0.2	+0.6	+0.8	+0.0	+0.8	+75.9	+75.1	+0.0
16/08	▲0.1	(▲1.3)	▲0.4	▲0.2	+2.1	+0.3	▲0.4	+0.2	+75.8	+74.7	+0.0
16/09	▲0.2	(▲1.2)	+0.2	▲0.3	▲2.8	+1.3	+0.2	+0.4	+75.6	+74.9	+0.1
16/10	+0.2	(▲0.8)	+0.2	+2.0	▲1.9	+1.5	+0.3	+0.8	+75.7	+75.0	+0.1
16/11	▲0.2	(▲0.4)	+0.2	▲0.1	▲3.3	+0.7	+0.1	▲1.4	+75.5	+75.1	+0.1
16/12	+0.8	(+0.8)	+0.2	▲0.4	+6.9	+0.5	+0.2	+1.3	+76.0	+75.2	+0.1
17/01	▲0.3	(▲0.0)	+0.4	+1.4	▲7.2	▲0.9	+0.5	▲1.1	+75.7	+75.4	+0.1
17/02	+0.2	(+0.4)	+0.3	+3.6	▲4.8	▲1.9	+0.5	+1.2	+75.8	+75.6	+0.1
17/03	+0.2	(+1.4)	▲0.7	▲0.4	+8.2	+0.1	▲0.8	▲3.6	+75.9	+75.1	+0.1
17/04	+0.9	(+2.0)	+1.1	+0.6	+0.1	+1.9	+1.2	+4.2	+76.5	+75.9	+0.1
17/05	▲0.0	(+2.1)	▲0.6	+1.0	+2.8	+0.1	▲0.7	▲2.4	+76.5	+75.4	+0.1
17/06	+0.4	(+2.1)	+0.2	+2.0	▲1.2	▲0.4	+0.3	▲0.8	+76.7	+75.5	+0.1
17/07	+0.2	(+2.2)	▲0.1	+0.5	+1.6	▲0.1	▲0.1	▲3.6	+76.7	+75.4	+0.1

7月の鉱工業生産は 前月比+0.2%と減速

17年7月の鉱工業生産は、前月比+0.2%と減速し、市場予想の同+0.3%を下回った。公益事業が増加したものの、製造業が縮小に転じたうえ、鉱業が鈍化した。

公益事業は、気温の上昇によって増加に転じた。一方、鉱業が高い伸びを続けていた石油・ガスの掘削などが一時的に減少したことで前月比+0.5%と鈍化したほか、製造業生産は前月比▲0.1%と市場予想の+0.2%に反して下落した。7月の製造業では、自動車産業で新モデル生産の準備に伴う生産停止が需要の減少もあり例年よりも長期間行われたため、多くの業種で生産が低下した。製造業は、ドル高の影響を受け、緩やかな拡大を続けるなかで、前述のような要因により減少した。ただし、在庫に過剰感がないほか、内外需要の拡大が続いていることから、一時的な減少と考えられる。

業種別では、コンピューター・電子機器、電気設備・部品、その他耐久財、食品・飲料・タバコ、アパレル、紙、石油・石炭が増加に転じたほか、化学が加速した。また、加工金属が横ばいに改善した。一方、一次金属、一般機械、航空機・その他輸送設備、家具・関連製品、繊維、プラスチック・ゴム製品、その他製造業が減少に転じたうえ、自動車・同部品、印刷・同サポートが減少幅を拡大した。また、木材、非鉄は鈍化した。

稼働率では、生産が拡大したものの、投資の持ち直しにより生産能力が増えたことを背景に鉱工業全体が76.7%（前月76.7%）と変わらずとなり、市場予想の76.7%と一致した。また、製造業は生産の縮小によって75.4%（前月75.5%）と低下した。

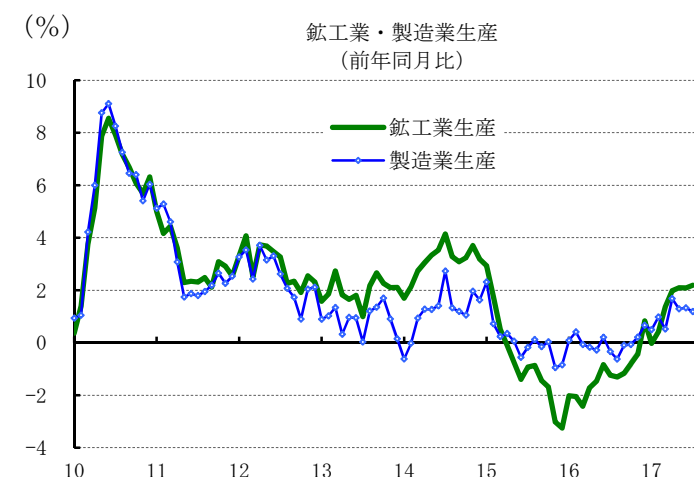
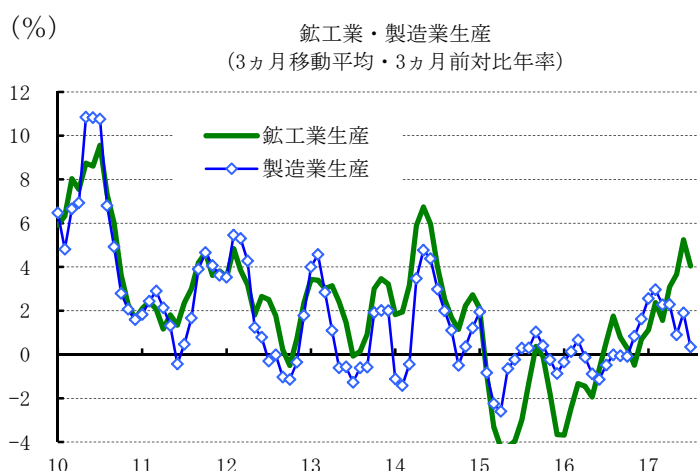
生産活動は緩やかな改 善を続ける見込み

四半期では、7月の製造業生産（平均）は、自動車・同部品等の減少によって、4-6月期比年率▲0.4%と4-6月期の前期比年率+1.9%からマイナスに転じた。7月の鉱工業生産（平均）は4-6月期比年率+1.7%と鉱業や製造業の鈍化を背景に4-6月期の前期比年率+5.2%から減速した。

もともと、3ヶ月移動平均・3ヶ月前対比年率では、製造業生産は+0.3%（前月+

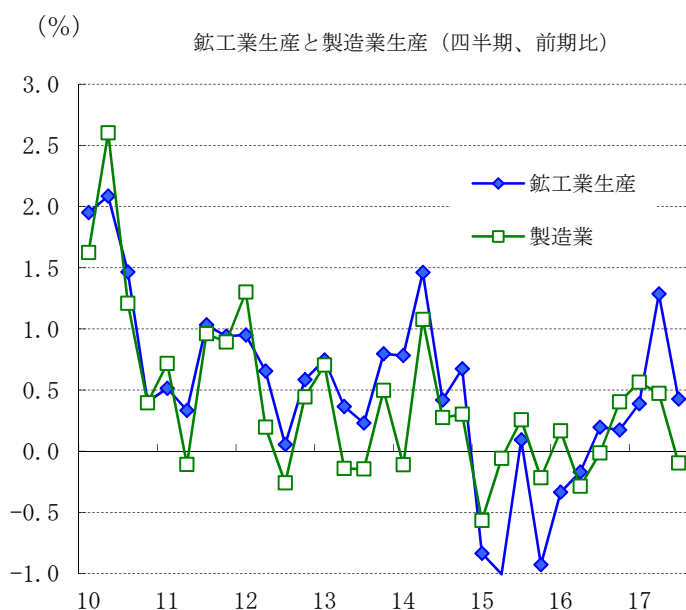
1.9%) とプラス幅を縮小し、拡大モメンタムは弱まった一方、鉱工業生産は、製造業の減速によって+4.0%（前月+5.2%）とプラス幅を縮小したが、鉱業の増加を背景に高い伸びを維持しており、拡大モメンタムは比較的強いままである。

今後の鉱工業・製造業生産活動は、内外需要の拡大傾向や、原油価格の安定等を背景に増加するものの、高い水準のドル実効レートの影響を受け、緩やかなペースにとどまると予想される。

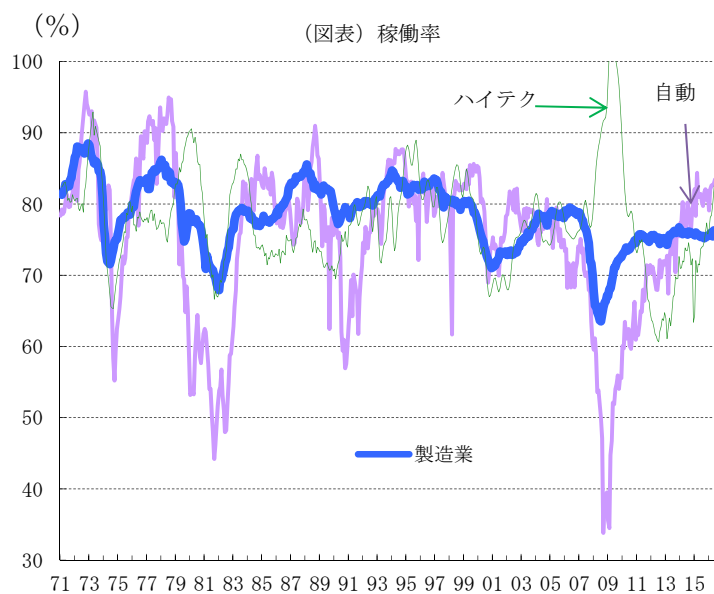


(出所) FRB

(出所) FRB



(出所) FRB



(出所) FRB

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。